

令和4年度第1回利根沼田地域保健医療対策協議会病院等機能部会 議事概要

1 日時

令和4年4月27日(水) 18時30分～20時00分

2 場所

利根沼田振興局庁舎501会議室

3 出席者

部会委員11名、同席者5名、オブザーバー7名、県関係者7名

4 議題

- (1) 沼田圏域における介護医療院の整備計画について
- (2) 計画の運営について(今後の進め方)
- (3) その他(地域の介護・医療に関する現状や課題等)
- (4) その他

5 主な意見

- (1) 介護医療院の整備の必要性について

(委員) 急性期医療で入院し、病院のベッドの都合で退院せねばならない際に、都市部でない地域は介護力が低く、受け皿として必要と考えている。

(委員) 令和5年度に介護療養型医療施設が廃止されることが決まっており、その受け皿として介護医療院を整備ということであれば素直に必要とも考えられる。

(委員) 利根沼田圏域には、介護療養病床は現在ない。医療の療養型病床の長期療養が論点になると思うが、介護医療院の類型でI型は医療の療養病床に準じたような形になるが、II型だと老人保健施設と同じ形になるので、そのあたりを整理して議論する必要がある。

(委員) 介護人材が少なくなっていく中で、新しいもの作って運営ができるのかなども議論していかないといけない。

(委員) 現状の老人保健施設でも、必ずしも全員が3ヶ月で退所しなくてもいいところと、看取りをするような、重症の方も受入れ可能な要件があるということ、老人保健施設にしても特別養護老人ホームでも喀痰吸引ができる介護者を育成しているような制度があり、老人保健施設などの拡充でも足りるのではないか。

(委員) WAM ネットから数字を確認したが、この地域の多くの老人保健施設等で看取りが実際に行われており、看取りが上手な地域というふうに認識しており、現状で対応できているのではないか。

また、特別養護老人ホームの待機者数だけでなく、働き手がいないために開けられていない病床があることから施設の稼働率なども確認するべき。

(委員) 令和2年の全国のデータでは、介護医療院として展開したのが約4万床あり、その中で新設はわずか1.3%であり、新設は国も当初想定していなかったように特例と言える。

(委員) 老人保健施設などからの退院先として、在院日数の調整などもでき、メリットが大

きい。

(2) 整備にあたっての適正規模について

(委員) 新しい施設が 116 床必要という根拠として、特別養護老人ホームの待機者の数が、正しく捉えられているとは思えない。

(委員) 急性期の患者も一定程度おり、そういう方を吸収するベッドとすると、116 床は埋まらないという数字ではないと考えられる。

(委員) 116 床は沼田市だけの計画の数字で、他の利根沼田の町村は 0 となっている。おり、沼田市がこれ程のベッド数を持つ必要があるのか、116 床の根拠を示していただきたい。

また、利用するのは利根沼田圏域の人であり、保険者である他の町村とも ~~コスト~~ 経済負担も含め慎重に議論すべき。

(委員) 2025 年問題のとおり後期高齢者が増加して、そのあと 10 年後以降は減っていくことが想定されており、地域も人口も減る傾向にあるのは間違いないので、~~そういうこと~~ 将来の人口推計を踏まえた上での形を検討すべき。

(委員) 今日の話の中で、実際は新規 116 床ではなく、新規が 66 床で、既存の老人保健施設の転換が 50 床ということで、そもそもの前提がおかしいのではないか。

(3) 公募対象について

(委員) 公共事業なので、設置可能な事業所については、すべてにきちんと周知をし、平等な機会を与えるのが適切と考えられる。

(委員) 介護医療院に求めている機能により、必要な医師、看護師、介護福祉士などの人員や設備も変わってくると思うが、ある程度の機能を持った施設になると手を上げられる医療法人や社会福祉法人は限定されるのではないか。

(4) 設置区域について

(委員) 沼田市に限らず利根郡を含めて、高齢者保健福祉計画の圏域や 2 次医療圏の単位で考えていくべき。

(5) その他

(委員) 老人保健施設の転換に関しては、検討したことがあるが、保険者である自治体と相談した結果、住民の理解が得られるかなど課題を感じた。

(委員) 病気に対する対処能力をどのぐらい備えたものを考えているか具体化してもらいたい。

(会長) 以上のような意見が出たので、整備の必要性、規模等については、継続して県の方も検討してもらい、今後またご意見をいただく機会を設けたい。